

計測・検査で「信頼」を提供する

主要製品

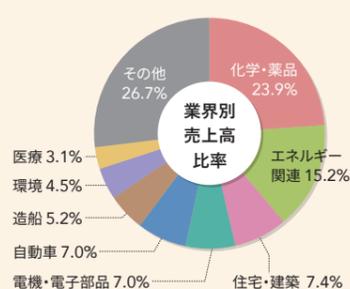
- 流量計 ● 計装システム ● 検査選別装置
- マイクロバブル洗浄装置・シャワーシステム ● 地盤調査機 ● 水分測定装置
- 各種分析装置(元素等) ● 抵抗率測定装置

取締役 兼 常務執行役員
制御システム事業本部
本部長

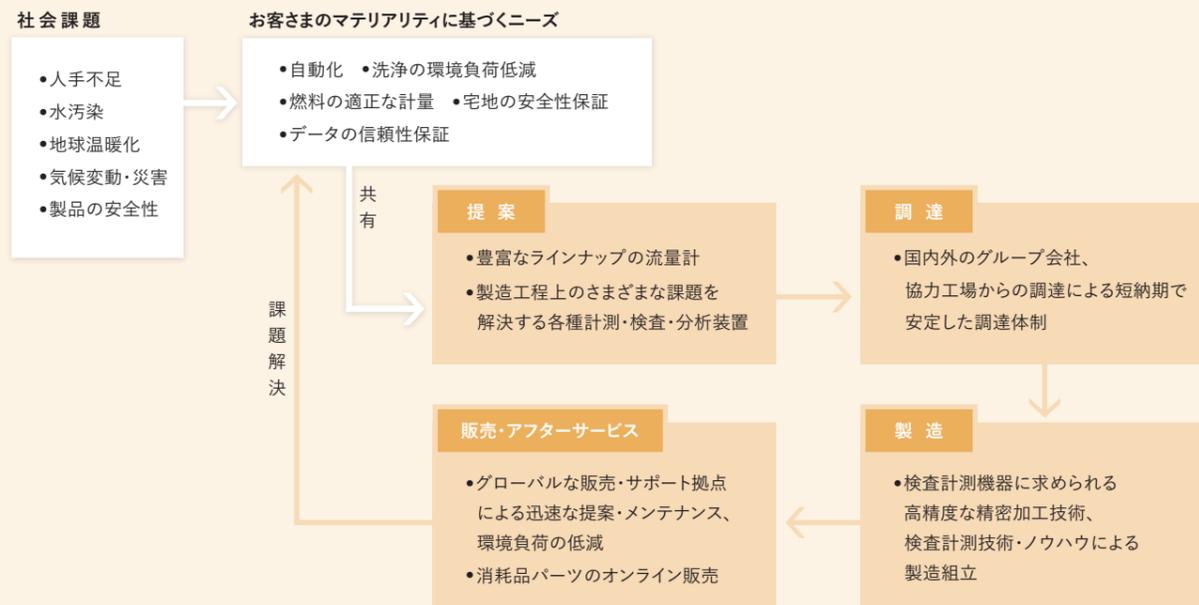
山添 重博



事業概要



制御事業の価値創造



制御事業の現状認識

プラス要因

強み

- 容積式流量計をはじめ豊富な計測原理を網羅し、アフターサポートまで充実
- 検査条件に合わせて選べる豊富な自動検査装置バリエーション
- 国内で圧倒的シェアを誇る自動地盤調査機
- マイクロバブル生成技術とその応用
- 高品質かつバリエーション豊富な分析・計測機器

マイナス要因

課題

- 欧州への販売力強化およびそれに向けた認証の取得
- 地盤調査機の海外展開
- IoT化、AI活用の拡がりへの対応

機会

- カーボンニュートラルに向けた製品開発、環境負荷の低い設備の需要拡大
- CASE関連での設備投資拡大
- 労働力不足、働き方改革等による工場の省人化、自動化拡大
- 海外での高品質な地盤調査の需要拡大
- 環境規制強化による分析需要拡大

リスク

- 電力、原材料価格高騰による部品原価の上昇
- 少子高齢化による国内市場の縮小
- 船舶の燃料切り替えによる既存製品からの切り替え

ビジョンと戦略

制御事業では、2025年にCAGR11.3%、ROS1.7UP(ともに2022年度比)を目標とする中期経営計画を策定しています。



中期経営計画達成に向けた課題と取り組み

	2023年度実績	2025年度目標
CAGR	11.7%	11.3%
ROS	+ 1.7pt	+ 1.7pt

・流量計の需要および欧州新拠点で分析機器の販売が好調に推移し増収増益
 ・コロナ後の需要回復、部品不足解消に伴い分析機器の販売が増加

■ グロースターゲット① 環境関連事業

項目	内容
進捗	<p>●2023年度目標比 104.6% 2023年度目標 ●2025年度目標比 52.9% 2025年度目標</p> <p>2023年度売上高 291百万円</p> <p>279百万円 552百万円</p>
2023年の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 「ナノセラミック分離膜技術」を持つイーセップ社と業務提携を開始 船舶新燃料に対応する流量計の拡販
目標とのGAP (達成/未達)の要因	<ul style="list-style-type: none"> カーボンニュートラルに向けた新燃料に対応する質量流量計が多く採用 他社競合が多く価格競争激化。さらなる差別化が必要
目標達成に向けた成長施策	<ul style="list-style-type: none"> 今後船舶関連で需要が見込まれる小口径モデルの拡充や、短納期体制の構築 カーボンニュートラルへの需要に応えるべく、溶剤再生装置を早急に開発し、有機溶剤リサイクル市場への拡販を開始 PFAS関連需要への対応として、自動試料燃焼装置の拡販



質量流量計
 船舶において環境への対応が進む中で、新燃料への移行の過渡期を迎えています。質量流量計クリーンフローは様々な燃料への対応が可能なため、新燃料へのスムーズな移行を支えています。

■ グロースターゲット② 半導体・食品市場

項目	内容
進捗	<p>●2023年度目標比 773.5% ●2025年度目標比 257.8%</p> <p>2023年度目標 2025年度目標</p> <p>2023年度売上高 77百万円</p> <p>10百万円 30百万円</p>
2023年の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 新製品の上市(電磁流量計、Bluetooth対応モデル) 質量流量計、電磁流量計、超音波流量計を中心に拡販活動
目標とのGAP (達成/未達)の要因	<ul style="list-style-type: none"> 半導体向け流量計の大口案件を受注。目標設定を大きく上回る
目標達成に向けた成長施策	<ul style="list-style-type: none"> メインの訴求製品としていた流量計だけでなく、検査機・洗浄機の案件もあり、各製品について需要に応じていく 新製品の上市(流量計のIoT化促進や計測範囲の拡大など)



IoT対応
 製品のIoT化が求められる中で、当社の流量計製品においてもBluetoothを利用したIoT化を進めています。今後はさらに対応機種を広げていく予定です。
 ※BluetoothはBluetooth SIG, Inc.の商標です。

■ グロースターゲット③ 海外地盤調査事業

項目	内容
進捗	<p>●2023年度目標比 2.7% 2023年度目標 ●2025年度目標比 1.4% 2025年度目標</p> <p>2023年度売上高 2百万円</p> <p>83百万円 168百万円</p>
2023年の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 「SDS試験結果を用いた液状化判定方法」について第三者審査機関より認定 東南アジア地盤工学会への出席
目標とのGAP (達成/未達)の要因	<ul style="list-style-type: none"> 大学研究機関との連携強化を図ったが、未だ販売には至らず ターゲットの絞り込みや最適な仕様への落とし込みが不十分
目標達成に向けた成長施策	<ul style="list-style-type: none"> 大学研究機関とのさらなる連携強化 東南アジアの政府機関・地方自治体をターゲットとした拡販



ジオカルテIV
 国内で圧倒的なシェアを誇る宅地地盤調査機です。次なるステップとしてタイ市場を軸に東南アジアでの普及を目指しています。

■ グロースターゲット④ EV/LIB事業

項目	内容
進捗	<p>●2023年度目標比 79.2% ●2025年度目標比 55.3%</p> <p>2023年度目標 2025年度目標</p> <p>2023年度売上高 234百万円</p> <p>296百万円 424百万円</p>
2023年の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 新製品の上市(MISTOL AI) 日東精工アナリティックヨーロッパの開設 流量計、検査装置、洗浄機といった多様な製品カテゴリでの拡販活動
目標とのGAP (達成/未達)の要因	<ul style="list-style-type: none"> 電池部品検査で検査装置を受注 上期はコロナの影響が尾を引き投資減。下期からは徐々に回復省人化の流れで追い風
目標達成に向けた成長施策	<ul style="list-style-type: none"> 検査装置の性能向上、AIを活用した検査装置の拡販 流量計や洗浄機で培ったルートでの検査装置の拡販 分析装置関連の好調な需要に対応できる生産、在庫管理体制



自動粉体抵抗測定システム
 成長分野である電池の電極をはじめ、電子部品の材料の評価に最適な装置。粉体の抵抗率とプレス密度を同時に測定します。

環境関連事業

「ナノセラミック分離膜技術」を持つイーセップ社との業務提携

環境負荷の低減のためにニーズがある、使用済み有機溶剤のリサイクルですが、従来の工法においては「リサイクル回収率の低さ」や「リサイクル回収時の大量のエネルギー消費」といった課題があります。これらに対応するため、当社

従来の工程との比較

	蒸留式	吸着式	膜式
設備規模	大型 ×	中型、複数 △	小型 ○
作業性	連続処理 ○	バッチ処理 △	連続処理 ○
エネルギー消費	大量消費 ×	中程度 △	最も省エネ ○
トータルコスト	大 ×	中 △	小 ○
シェア	50% ○	30% △	上市準備中 △
デメリット	熱に弱い物質 NG ×	吸着剤の能力低下 △	膜コスト △
総合評価	×	△	○

保有の「プラント製作・流体制御・防爆」技術とイーセップ社保有の「ナノセラミック分離膜技術」を融合させた「有機溶剤リサイクル回収装置」の開発を行っています。

本製品により、リサイクル回収率を高めるとともに、リサイクル回収時のCO₂削減に貢献します。



EV/LIB事業

部品検査装置の拡販

労働力不足への対応として、省人化ニーズはますます高まっています。それに対応するため、当社では検査選別装置の拡販を進めています。近年では最新技術を積極的に導入し、きめ細やかな対応力を強化しています。2021年に、多関節ロボットを利用し、デリケートな部品の検査を可能にした「MISTOL ロボタイプ」を開発。2023年末には、AI技術の搭載により設定作業の工数削減および人の熟練度や感性に依存しない安定した検査を可能にする「MISTOL AI」の販売を開始しています。

